令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
（障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業）

取組成果報告

取組テーマ：
◎ウ）デジタル技術を活用した障害者スポーツ実施環境の整備
○エ）オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備

学校法人 電子学園

U-SPORT PROJECT

事業概要及び実施体制 スキーム

1) デジタル技術を活用した老若男女や障がいの有無に関係なく参加可能な
　ダンス・スポーツの実施環境の整備
2) オープンスペース等空間の利活用によるインクルーシブなスポーツ実施環境の整備
3) 競技体験者の更なる拡充
4) エコシステムの構築・関係者のコミュニケーション基盤を構築

事業成果1デジタル技術を活用した老若男女や障がいの有無に関係なく参加可能なダンス・スポーツの実施環境の整備

「Sli de Rift/ Sli de Rift seahare」を体験可能な段階から競技者同士が競い合える段階まで引き上げるべく、
ハードウェア・ソフトウェアを含む本機器及びシステムの開発を含む、実施環境の整備を行う

・ハードウェア
→機体の走破性の向上
→多様な身体性への対応幅の拡大
→オンライン・ローカルネットワークの不安定、レイテンシ問題解消

・ソフトウェア
→遠隔操作技術を活用した新たな競技種目の開発
→各種運用マニュアル化を通じた機体・環境構築の安定的運用
→インターフェイスデザイン・オペレーティングシステム開発及び改良
　　→体験者の待機中の効用拡大
　　→新たな運動獲得に至る時間の安定化
　　→運用人材の削減

・開発した競技の応用
→ダンススポーツ領域との融合(年1回の競技会)
→持続的活動体制の構築 “スライドリフトプロジェクト”
→研究体制の構築

・今後

・継続的な課題探索及び課題解消

・運営の安定化
→ 属人性の低下及び人材育成
→ 円滑な普及活動の促進

・リハビリテーション領域への応用
→研究機関との継続的調査及び妥当性の検証

事業成果2オープンスペース等空間の利活用によるインクルーシブなスポーツ実施環境の整備

U-SPORT PROJECT

オープンスペースでのインクルーシブなスポーツの実施環境に求められるアクセシビリティ要件を整理、整備

・オープンスペースの要件定義
→広さ約10m x 6mの平面空間

オープンスペースの円滑な利用手法
→短時間での設営撤去
→消耗品を中心とした環境構築資材
→高耐久素材の資材を解体なく繰り返し利用
→ 30分程度での設営及び撤去

・アクセシビリティの担保
→競技空間
→テープ等で段差なく空間を区切る
→高さが必要となる部材の選定
→柔軟性
→高さ5cm以下
→低摩擦素材

・競技上の情報処理
→加齢に伴う乾燥への対応
→身体的制約を包摂するセンサ選択

・今後

・スライドリフトプロジェクトによる月1回程度のオープンスペース等を用いた事業の継続

・イベントの規模に応じた競技人口拡大を目的とした運営メソッドの構築
→数万単位：団体連携
→数百単位：競技人口拡大
→数十単位：競技者定着及び熟練度向上

事業成果3 競技体験者拡充に向けた取組

全国でイベントを実施し、超人スポーツの認知を広めていくと同時に競技体験者の拡充にも注力する。

地方都市への展開

・宮崎県小林市(体験会)

・千葉県柏市(体験会/WS)

・東京都大田区(競技会)

・神奈川県横浜市(体験会)

・東京都港区(体験会/競技会)

・徳島県海陽町(シンポジウム)

・今後

・地方自治体及び団体との連携
- ・小林市：来年度事業継続
- ・柏市：現地高校/産総研連携
- ・大田区：来年度大会継続
- ・横浜市：継続的な取り組み
- ・港区：月1回程度の体験会
- ・銚子市：イベントの実施
- ・海陽町：継続的な取り組み

・地方自治体及び団体間での相互連携

事業成果4 エコシステムの構築・関係者のコミュニケーション基盤を構築

組織委員会の設立、運営

・基盤構築
→継続的事業実施組織
　　スライドリフトプロジェクト
→各地方都市との連携
　　小林市
　　横浜市
　　海陽町
　　銚子市

→教育機関との連携
　　柏の葉高校
　　慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(KMD)
　　情報系イノベーション専門職大学(iU)

→研究機関との連携
　　産業総合研究所

・今後

・スライドリフトプロジェクト
　　→プロジェクトディレクター：初瀬氏
　　→ダンススポーツ領域への展開拡大
　　→竹芝での定期的な体験会/大会の実施
　　→コミュニティ拡大

・コミュニケーション基盤の拡張
　　→各自治体及び団体間での連携

事業継続や横展開に向けたポイント、課題 及び今後の計画、課題

事業継続
→属人性の低下
→ランニングコスト低下
→円滑な活動拡大(多拠点同時事業実施等)
-継続的な運営システムの改良

→自走性の担保
→円滑な活動拡大
-需要探索

横展開
→リハビリテーション領域への応用
-専門的な医療知識の確保
-入念な学術領域との連携

→他の超人スポーツ競技の巻込み
-費用対効果等考慮した各競技運営者との調整

次年度以降計画

・継続に向けて
→地方都市連携等による活動領域の拡張
→運営に関するさらなる属人性の低下
→運営人材の育成

・横展開に向けて
→研究機関との連携によるリハビリテーション領域展開
→他の超人スポーツ競技へのノウハウの横展開